

書類選考課題記入要領

- 解答作成の際には、他者と相談したり他者の指導を受けたりすることなく、独力で取り組むこと。ただし、関連する論文や書籍等の文献を調査することは積極的に行うことを推奨する。
- 本専攻ホームページ上の解答用テンプレートファイルを用いて A4 判で解答を作成すること。
- 解答本文は 2 ページ以内を厳守すること。
- 解答用テンプレートファイルの文字サイズ，フォント，余白等のフォーマットは変更してはならない。
- 必要に応じて，太字・斜体・色等の修飾を加えることは妨げない。
- 「受験者氏名」欄以外の箇所に，受験者の名前や所属が分かる情報を記載してはならない。
- 本文に関係ない記号等を書いてあるものは，不正行為と見なす。
- 文献等から写した文章はそれが引用であることが分かるように明記し（例えば” ”でくくる，斜体にする等），参照した文献を明記すること。
- 文献が適切に引用されていない場合，剽窃とみなされる可能性がある。
- 文献を引用する際には，以下を参考に，学术论文の場合は著者名，論文名，掲載誌名，巻号，発表年（西暦），ページ番号，書籍の場合はその書誌情報等を参考文献リストに記載すること。参考文献は第一著者の姓（の英訳）のアルファベット順に番号を振ること。本文中では [1], [2] 等と表記する。

参考文献リストの例：

- [1] R. A. Adams and J. J. F. Fournier: *Sobolev Spaces*, 2nd ed. *Pure and Applied Mathematics (Amsterdam)* 140, Amsterdam: Elsevier/Academic Press, 2003.
- [2] D. Clément, A. Kohatsu-Higa and D. Lamberton: A duality approach for the weak approximation of stochastic differential equations. *Annals of Applied Probability*, 16 (2006), pp. 1124–1154.
- [3] T. H. Cormen, C. E. Leiserson, R. L. Rivest and C. Stein: *Introduction to Algorithms*, 3rd ed., MIT Press, Cambridge, MA, 2009.
- [4] 今野浩：「線形計画法」。日科技連出版社，1987.
- [5] 森本孝之・川崎能典：「経験類似度に基づくボラティリティ予測」。「統計数理」第 65 巻第 1 号 (2017), pp. 155–180.
- [6] G. Strang: *Linear Algebra and Its Applications*, 4th ed., Cengage Learning, 2006.

([1], [3], [4], [6]が書籍の例，[2], [5]が学术论文の例)

- 参考文献リストは課題 1 のものと課題 2 のものをまとめて課題 2 の解答の後に載せること。
- 参考文献リストは 2 ページの制限を超えて 3 ページ目以降にも記入してよい。

課題 1.

- これまで受験者が学んできた内容に触れてもよいが，それらだけにとどめず，修士課程において研究したいテーマに重点を置いて記述すること。
- 論述に際しては数式を用いて構わない。また適宜参考文献を引用して説明すること。

課題 2.

- 内容を正確に伝えるため、必要に応じて数式や図等を積極的に用いること。また適宜参考文献を引用して説明すること。
- (1)に関しては完全な証明を書く必要はないが、取り上げた事項の成立の仕組みが明確となるような説明を記載すること。
- (2)に関しては取り上げた事項の学術上の意義が明確となるように記述すること。
- (3)に関しては単に応用例を列挙するだけでなく、応用例と取り上げた事項の関係を明確に記述すること。